

周辺の
みどころ

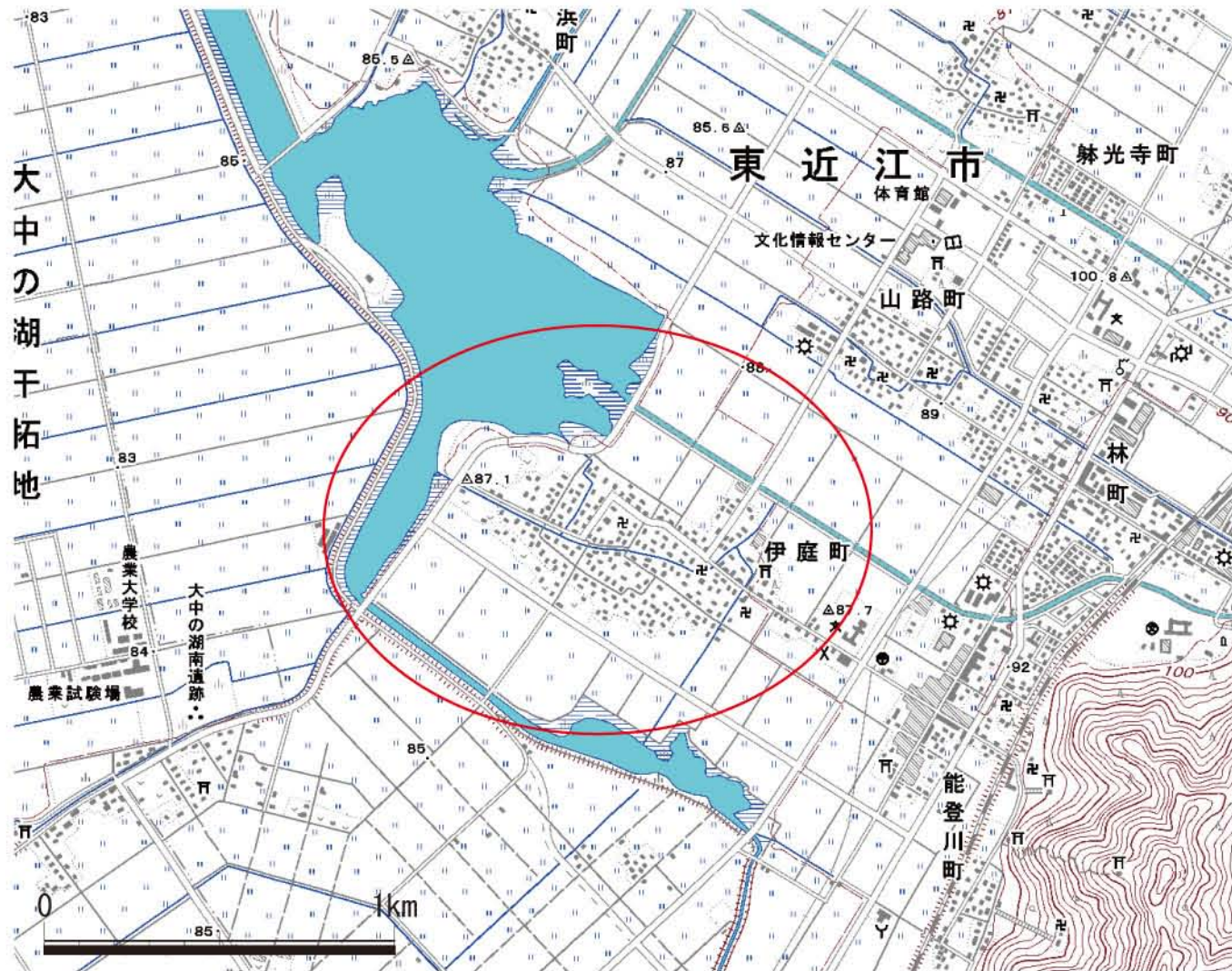
織峰三神社の祭礼として毎年5月4日に行われる「伊庭の坂下し祭」は、岩山の急斜面に神輿を下す神事が見どころで、大津市日吉大社の午の神事を模したものとわれ、天台宗安楽寺の僧徒が行ったと伝えられている。

付近には、徳川家光上洛の際の宿舎であった伊庭御殿跡がある。

伊庭内湖では、現代的なレジャーを楽しむこともできる。西日本最大の水車が回る能登川水車とカヌーランドでは、その名の通りカヌーを楽しむことができる。



伊庭の坂下し（びわこビジターズビューロー提供）



[アクセス]

●JR東海道線能登川駅下車 徒歩25分。

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]
(関連文献/関連施設)

- 東近江市能登川博物館 TEL 0748-42-6761
- 水車資料館 TEL 0748-42-3000

い ば
伊 庭

東近江市伊庭



伊庭の集落を縦横にめぐる掘割

東近江市伊庭は、湖東平野に残る水郷集落の一つである。

町中には、瓜生川から引いた水路が縦横に巡り、豊富な水量と清らかな水質をみることができる。その様子からは、内湖での漁労や水田への往来などに船が利用されていた時代を彷彿とさせる。また、それぞれの家々に設けられた「カワト」も多く残されているおり、水とのかかわりは今も息づいている。

中世には琵琶湖の水運・水軍を背景に大きな権力をもった伊庭氏の居城が設けられ、江戸時代には旗本三枝氏が陣屋をおいた集落でもあった。

豊かな自然と歴史を持つ水郷伊庭は、まさに水の宝である。





カワト



大浜神社仁王堂



大浜神社の勧請縄

伊庭

所在地 東近江市伊庭

伊庭氏の活躍

伊庭の地を本拠地とした伊庭氏は、近江守護である佐々木六角氏の重臣である。しかし、その系譜には不明な点も多く、鎌倉時代には九条家の荘園として知られる「伊庭荘」であったと伝えられるがそのかわりは明らかではない。その後、室町時代ころまでは近江守護代に任じられるなど、内湖やその周辺に広がる水田地帯の豊かな生産力、あるいは琵琶湖の湖上交通の掌握などを背景に、強大な権力を持つようになっていった。

こうした伊庭氏の勢力拡大を恐れた六角氏は、文亀2年(1502)に伊庭貞隆の排除を企て、伊庭の乱が勃発した。

伊庭氏は守護である六角氏を蒲生郡(現在の日野町)の音羽城にまで追い詰めるなど騒乱を利用して地位を高めつつ、室町幕府の仲介で和議を結んでいる。

永承4年(1507)、管領細川氏の内紛によって、六角氏と伊庭氏の対立が再び表面化してきた。この騒乱は足利將軍家をも巻き込み長期化した。永正17年(1520)の水茎岡山城が落ちたことにより伊庭氏は急激にその勢力を失うこととなり、歴史の表舞台から消えていった。

伊庭城跡と伊庭集落

伊庭氏が本拠地に築いたのが伊庭城であるといわれている。瓜生川を利用した堀と伊庭内湖に囲まれた水城とされ、伊庭氏と水運・水軍との深い関係を示すとされている。

集落の中心に位置する伊庭城の跡には元禄11年(1698)につくられたとされる旗本三枝氏の営んだ陣屋、さらに陣屋の跡に明治期に建てられた「勤節学校」(現在の勤節館)がみられる。



金毘羅神社の常夜灯



船板塀のある町並み



伊庭内湖

水路と文化財の町並

伊庭城・伊庭陣屋のあった勤節館を中心に、瓜生川から引かれた水路を縦横にめぐらせているのが伊庭の集落である。

埋められた水路、幅が狭められた水路などもみられるが、幹線となる部分では、本来数mの幅員で、小型の船が往来することを可能にしていた。生活用水と関係する「カワト」ではあるが、ここでは船着場としても使用され、船が係留されていた。

集落の東端に位置する大浜神社に残る仁王堂は、鎌倉時代の「常行三昧堂」で、中世に栄えた伊庭氏の面影を残す貴重な文化財である。

集落西端の金毘羅神社には江戸時代の常夜灯が残されている、伊庭が琵琶湖水運と結びついた集落であったことを伝えている。

集落内には船板を利用した建物が見られるなど、現在も水郷集落であることを彷彿とさせる景観が維持されている。